

岩手県立盛岡聴覚支援学校暖房等設備運転管理業務委託仕様書

受託者は、業務の実施にあたっては、この仕様書に定めるもののほか労働安全衛生法（昭和47年6月8日法律第57号）、ボイラー及び圧力器安全規則（昭和47年9月30日労働省令第33号）、その他関係法令等を遵守し、委託業務を誠実に履行するものとする。

1 業務実施場所

岩手県盛岡市乙部4地割78番地2 岩手県立盛岡聴覚支援学校

2 業務の内容

- (1) 暖房用ボイラー、給湯ボイラー、貫流ボイラーの運転
- (2) 運転期間外に実施する法定検査のための整備、及び法定検査の立会い
- (3) ボイラー設備管理
- (4) その他附帯する業務

3 業務量

- (1) 委託日数 年間264日程度
- (2) 暖房日数 年間133日程度 ※いずれも見込日数
- (3) (1)(2)以外に、臨時に暖房等を必要とした場合は、暖房等をしなければならない。

4 業務の仕様

- (1) 受託者は、ボイラー等の機器及び附属する装置の運転に従事するとともに、設備の延命、経費の節減を図るための適正な運転、確実な点検及び巡回を行い、暖房等の運転が支障なく機能を十分発揮できるよう努めること。
- (2) ボイラー取扱者は1名以上常駐すること。暖房ボイラー運転期間にあつては「1級以上のボイラー技士免許を有する者」であつて、危険物取扱者資格（甲種、乙種、丙種の何れか）を有する者を配置すること。
- (3) ボイラー及び附属設備の取扱操作にあつては、ボイラー及び圧力容器安全規則等の関係法令を遵守すること。
- (4) ボイラー及び附属機器等の機能を維持するために、「岩手県立盛岡聴覚支援学校ボイラー等運転及び点検整備基準」（別紙1）により日常点検整備を実施すること。
管理業務において異常を認めたときは、直ちに委託者に連絡するとともに、速やかに適切な処置を講じ正常な状態に復旧するほか、常に早期発見、安全かつ適切な運転の保持に努めること。
- (5) 事故が発生したときは、他の器物等に被害が波及しないように処置し原因を調査のうえ、委託者の指示を受けて通常の状態に回復させること。
- (6) 「ボイラー及び圧力容器安全規則第32条」の規定による定期自主検査を実施し、検査表を作成すること。
- (7) オイル地下タンク及びその配管周囲の点検並びにオイルの消費については、消防法に定める事項を遵守すること。
- (8) 従事した日は、ボイラー日誌を作成し、委託者に提出し検印を受けること。
- (9) 委託者は次年度以降の年間予定日を、前年度の末日までに受託者へ通知するものとする。

6 その他留意事項

- (1) 従事者（代行者を含む）の履歴書を契約締結後速やかに提出すること。また、健康診断書にあつては年1回提出すること。変更があつた場合も同様とする。
- (2) 委託者は、受託者の委託業務に必要な常駐者の執務場所及び休憩室として指示する1室の使用を許可しその使用料は徴収しない。なお、使用にあつては、整理整頓に心がけ、執務環境の保持に努めること。
- (3) ボイラー取扱者は、就業中は作業着を着用し、上着には会社名及び氏名を記載すること。

(別紙1)

岩手県立盛岡聴覚支援学校ボイラー等運転及び点検整備基準

1 ボイラーバーナーの運転

- (1) 付属品、計器類の読み確認
- (2) 付属品、計器類の操作点検
- (3) 付属品、計器類の整備・清掃

2 熱輸送経路

- (1) 真空ポンプ、温水循環ポンプ、熱交換器、空調器、ヘッター等配管経路の整備点検
- (2) 吊り系統の点検
- (3) 管末トラップの操作確認
- (4) 放熱器弁、トラップの操作確認

3 燃料経路の操作・点検及び計量の読み記帳並びに清掃

- (1) オイルサービスタンクの点検
- (2) オイルギヤポンプの操作及び点検
- (3) オイル地下タンク残油量の計量
- (4) 配管経路の漏れチェック
- (5) 煙道の漏れ、損傷の有無及び通風圧の点検

4 その他機器及び経路の点検

- (1) 膨張タンク、給水経路の操作及び清掃
- (2) 各放熱器の据付状態良否の点検
- (3) フィルターの清掃（月／3回）
- (4) 自動計装置の指示確認及び設定温度・湿度の異常チェック

5 その他

ボイラー技士が日常必要な諸業務並びに小修繕（立会、運転後の後始末、電源スイッチの確認、他整備）に関すること。